

事務事業名 文化財施設災害復旧事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1887

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01100301-01-835
基本事業：	01	文化財の保護・利活用の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	市内の文化財指定件数（累計） 市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数（累計）		担当課	文化財課
			担当係	保存活用担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
国史跡をはじめとする被災文化財			（令和6年度） 国史跡阿志岐山城跡内で、令和5年7月集中豪雨による土砂崩れが発生しました。二次災害や時間の経過に伴って毀損が拡大することで、当該文化財の歴史的・学術的価値が損なわれる恐れがあるため、早急に被災箇所の復旧に取り組みました。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			（令和7・8年度） 令和5年7月の集中豪雨で被災した市史跡原口古墳については、周辺の安全確保と文化財の保全の両立を図る工法の選択に時間を要しており、令和7年度に測量・設計、令和8年度に工事施工の予定で事業を進めています。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
市内の文化財指定件数		件							
5. コスト									
事業費		計	千円		12,783	10,509	55,465		
		国	千円		8,948	0	0		
		県	千円		1,533	0	0		
		地方債	千円			0	0		
		その他 一般	千円		2,302	10,509	55,465		
正職員人工数		人工		0.7	0.1				
正職員人件費		千円		5,616	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		18,399	11,347	55,465			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		毀損した文化財の災害復旧工事を行うことで、重要な文化財を保護し、文化財および周辺の被害拡大を防ぐことができました。そのため、指定文化財を適切に後世へ伝えられるようになりました。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし	< 状況 > < 原因 > < 課題 > 近年、記録的な集中豪雨の発生が続き、今後も史跡の被災が懸念されます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
巡視などで被災状況の早期に情報把握を行い、補助取得などを行い、適切に文化財が保存されるよう災害復旧に努めます。				文化財にとって被災しそうななどの危険箇所については、日頃の巡視で情報を収集します。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
近年の集中豪雨により各史跡が被災しており、災害復旧事業に取り組んでいます。 平成30年度・令和6年度：国史跡阿志岐山城跡 令和元年度：特別史跡基肄城跡 令和7・8年度に市史跡原口古墳				令和6年度 国史跡阿志岐山城跡の災害復旧事業（補助金） 国（文化庁） 歴史生き生き！史跡等総合活用整備補助金（災害 補助率70%） 福岡県 文化財保護事業補助金（災害 補助率12%）					